

第4回（仮称）大口町町民参加条例策定会議 会議録要旨

日 時：平成19年12月5日(金) 午後1時30分～

場 所：大口町役場 2階 第1会議室

開会

[委員長あいさつ]

今日は、地区懇談会でいろいろなことが分かったり感じたりしたと思います。その辺を今日は各委員の皆さんからのご感想を交えて、これをどういうふうにしていくか、今後どう向っていくかということをディスカッションできたら良いと思います。後、残されたなかなか発言を拾えない方の声をなるべくたくさん聞いて。参加条例は上からのものにしたくないというご意見もありましたけれど、みんなで作っていくということで、皆さんの意見を取り入れながら形にしていきたいというふうに思っています。よろしくお願いします。

[町長あいさつ]

五条川の桜も冬景色になりはじめたかなと感じております。11月10日から22日まで、晩秋の大変寒い中でありましたけれど、策定委員会の皆さんには地区懇談会にお出かけをいただき、特にファシリテートを務めていただきました岡田さん、中西さんには大変ご苦労様でした。住民の皆さんもそうした中でこのびのびと自由に発言ができたのではないかと思います。そうしたことができることは大変素晴らしいことだと思っています。改めて委員長の采配に感嘆をしているところです。

この一ヶ月ばかりの間に多くのことがありました。大口町にとっては11月20日に地方自治法施行60周年記念式典に東京へ赴き、両殿下ご臨席のもとに総務大臣表彰を受けることができました。全国で112団体でありましたけれど、愛知県下では大口町と豊田市の2団体でありました。他に個人、民間団体への表彰もありましたけれど、大変名誉な賞をいただいたと思っています。

これはひとえに住民が参加した新しい地方自治の時代をつくっていくその先進的な取り組みに対して賞をいただいたと、こういうふうに考えます。改めて住民参加条例をおつくりいただくこの手法の中にもそうしたことが芽生えていると考えています。

万博は一昨年ありましたけれど、万博跡地で駅伝がありました。今日お見えになります渡辺さんの東海理化さんにも大変なご協賛をいただいて、応援していただいた催しでありましたけれど、これに参加した大口町は、去年は16位、今年は8位と町村の部ではありますが10位以内に入賞でき、表彰状をいただくことができました。そして昨年度の順位から大躍進することができたということで、敢闘賞をいただきました。大変住民の皆さんが元気です。

元気であることは大変良いことだと思っていましたら、先日、西小学校の児童が詩を書いてくれたということです。「私の大口町」という題名で小学校3年生の子が書いてくれました。

大口大口 素敵なまち みんな元気 いつも外で遊んでいる

大口大口 素敵なまち いつも本気 何をやるときも本気だぞ

大口大口 素敵なまち 助け合い みんな助け合っている

大口大口 素敵なまち だから私は好きなんだ

こういう詩であります。今、住民参加条例を作っていただくこれが将来の子ども達にきっと役立って、この町が大きく繁栄していくその原動力になってくれればと思っています。今日の会議が実り多いものになりますように心からご祈念を申し上げ、ご挨拶といたします。

[議 題]

(1) 町民参加のまちづくり地区懇談会の結果について

大森主幹より、「配布資料1～3」に基づいて説明。

曾田委員長

これから一人ずつご感想を伺いたいと思います。地区懇談会をやってみて、総合計画が浸透していないという感じがして、機会があれば皆さんに聞いたんですが、「総合計画知っていますか？」と尋ねるとこれは知っているんですが、「中身を読んだかどうか」を尋ねると皆さん読んでいないということがあったので、今度の総合計画は、地区内分権というか、大口町の今後の姿勢が述べられていて、これに従ってやっていくということで、今回つくろうとしている参加条例もそのためにつくるということがあります。さつきヶ丘では、「条例作成の意図が分からない、何で今さら町民参加のまちづくりですか。」と、こういう意見もあると思います。

こういう意見が出ないように皆さんに分かっていただくことをしなくてはいけないし、条例そのものもあると良いと分かっていたようにしないといけないなという気がしました。それから懇談会のいろいろな地区で声を聞いたんですけど、「一回だけでなく何回もやってください」という声があった気がします。また、「行政のパフォーマンスにしないでください」、これは当然の話で、ご理解いただくまでに何回もやっていきますというぐらいの気持ちでいかないとダメで、一応途中段階で、懇談会という形が良いのか分かりませんが、いろんな声を出したのは良いけれど、それをきちんと行政が取り入れてくれるのか、それが分からないという声があったと思うので、別の手段でも良いですから、こういうことをやっていて、こういう声が出ていて、できれば地区ごとの特色なんかも出すと良いかもしれませんが、今こういうふうにやっていますというのが、途中の段階の情報公開もできたらしていくと声もまた出てくるのかと思います。

委員の皆さんからも気がついたことなどをお聞きしたいと思います。

中西委員

皆さんに支えていただいてやることができたので、本当にありがとうございました。自分の地域のことしか、住んでいるところのことしか分からなかったんですが、いろんな地区をまわらせていただいて、地区ごとに特徴、雰囲気、意見、もちろん同じこともあるんですが、地域によって特徴がそれぞれあるんだということが分かりました。良い機会を与えていただきました。良かったと思います。曾田先生が、皆さんでまわりましようと言ってくださって、その意義が良く分かりました。逆に言うと、町民の皆さんも自分の地域のことしか知らないと思うので、町の中でどういうことが起きているのかということのをうまく伝えてあげる仕組みができると意識やいろいろなものも変わるのかなと思いました。

岡田委員

私も6箇所まわらせていただいて、これまでも大口町には何回も足を運ばせていただいてはいたんですが、地区レベルでの実態を知らずにいましたので、改めて知ることができたと思います。そういう意味でいうと、河北のごみ問題の話であったり、防犯パトロールをやっている地区であったりとか、既に住民の皆さんが主体的にやられていることがたくさんあって、それをきちんと位置づけてあげないと、何か町民参加という言葉の中に行政のやっていることに町民の皆さんに参加していただくということなんですが、既にやられていることをきちんと位置づけるということがまず第一ではないかと感じました。もう一つは、今回緩やかな参加型の地区懇談会のプログラムをさせていただいて、評価はそれぞれいろいろあったと思うんですが、一部の方からは割りと良かったと評価していただけたことは成果かと思っていまして、そういう意味では地区懇談会自体が思ったことをオープンに語れる場にもう少しなっても良いのかと思いました。地区の関係自体がオープンに少しずつ成長していくと一つの参加のまちづくりの基盤になるかと感じました。

曾田委員長

今回は夜ということとか、区長さんから皆さんへという形なので、資料2の円グラフにも表れているように少し偏りがあるように思いました。地域内の分権ですよ。自主的に声が出せる仕組みをつくっていくという意味でもこの地区懇談会のあり方をさらに上手くつくるというのが、条例をつくるのと同じくらい大事なことかなと思いました。岡田さんの提案は良いご指摘だと思います。

楠委員

私が思ったのは、狭い大口町で11の区で、初めて全部参加させていただいて、共通したものもあれば、地区によって違うなど。全体的に皆さんの参加意識は、想像していたより高いですね。総合計画をご存知ない方でも何かの形でまちづくりに参加していきたいという人が多かったのは心強く思ったんです。しかし問題点が2つ、一つは参加していただいた方が、区長さんが一生懸命声を掛けていただいて、義理だとかいろんな関係で区の評議員とか班長とか、昨年やられた方とかがけっこう多かったと、余野は役場の職員2名の他はほとんどそうだったと認識しています。ですから、そういう意味ではアンケートは、総合計画の頃のアンケートと比べていろいろやっている人が多かったのは、そういうことに数字が上がる理由があったのではないかと思います。

曾田委員長

地区懇談会での人の集め方みたいなものが、従来どおりのやり方というか、区長さんから声を掛けて、もう少し自由に気軽に参加していただけたら。

楠委員

区の地域内分権がまだ歴史があって、自分が住んでいるところで、一住民として意見を言う機会がほとんどないということがある。区によってはやり方が随分と違うということも感じました。役員選出も明文化されたものが無いところもあるようです。

曾田委員長

ものすごく固いところと、割とフランクに言ってくださる地区と大分温度差があると感じました。今のご指摘の議会との関係は、代表制民主主義の議会でいろんなことをやっていくやり方の中に住民参加はある意味直接制民主主義のやり方ですから、馴染まないということは当然のことなんですけれど、代表制の話は法律的には良い仕組みであったにしてもそれだけでは上手くいかなくなってきているというのが、住民投票ですとかそういう形の住民参加というのが、必要とされてきたということもありますし、今回の住民参加というのも、一人ひとりの呟きというもの、議員さんに陳情に行っていくという今までのルートとは違って、こういうことがあったら良いなということがうまく町の行政に反映できる仕組みみたいなものがないかという、そういうところだと思うんですね。だから住民の皆さんにやっぱりあると良いねということが分かっていたらいいなという条例になれば、議員の皆さんにも、議会には議会の役割があるし、それから参加の仕組みもそれを補完するきめ細かな仕組みの必要性を分かっていたらいいなという仕組み、住民の皆さんでそこを通らないと、今までのでどうしておかしいんだという反発を受けることになると思うので、今回の地区懇談会でも、機会があれば申し上げましたけれど、やはり住民の皆さんが必要だと分かっていたらいい、その条例を上手く使っていたらいいなというふうなものになると良いのではと思います。住民の皆さんに、上手く分かっていたらいいなということを我々も考えないといけないと思います。

渡辺委員

地区懇談会での感想なんですけれど、3つあって、一つは従来の地区懇談会はどういうものなのか分からないので、一緒だったのか確認はできないんですけれど、私が受けた感想は政策調整課のスタッフが何人か来て、住民の方の意見をまともに受けて、答えられるものは答えるというやりとりをしたことで、その方にしてみると言いたいことが言えたとか、一生懸命話してくれた方も何人かみえたんで、地区懇談会という場で直接行政にものを言えた、そしてその場できちんと反応してくれたということで、これが従来ののか初めてなのかは分かりませんが、そういう意味で参加した人からすればちょっと手ごたえがあったとか、変わったぞという雰囲気の一部にあったのではないかと思います。二つ目は逆で、これをパフォーマンスにするなどという意見がありましたけれど、条例を含めてパフォーマンスだと思っている懐疑的な住民もたくさんいるのかと。いろんな地区で出てたのは、これまでいろんなルートを通して意見を言って行政はやるよといったのに、まったくやられていないという意見がありました。あるいは、約束まではないけれど、区会から上げたり要請をしたけれどもなしのつづてだと。それが非常に町民にとっては根深い不信感につながっているという気がしました。だから今回の条例もどうせ形だけ作るんだろうという懐疑的な意見がある。また先ほどの言ってみたらけっこう反応してくれたという実感も沸いたのかなと、ですから今後の進め方なんですけれど、これもどこかにあったんですけれど、今回の条例をつくるのは町の覚悟を示すんだねという意見があったんですね。これからは違うぞと町は、ちゃんと意見が出たら聞くぞと、やれないにしてもやれな

いと答えると、何月までに回答すると、そういうレスポンスをはっきりすることが住民にも参加してもらい、それに行政が応えることで、そういう覚悟を条例の中できちんとしてくれという意見があったと思うんですね。それが一番大事だと思いますので、今回の地区懇談会の結果もこのまま出すのかまるめるのかは別として、各地区の参加者に返さないといけない地区ではこんな意見が出ました、それを受けてという今後の進め方まできちんとして返すということと、今後策定会議でやっていく条例の素案づくりもきちんとして住民の方に開示する、今ここまで進んでいまして、それからこれに絡んだ懇談会を今後もやっていって、例えば骨子のできたのでみなさん集ってください、意見をください。ほぼできあがったので皆さん集ってください、意見をくださいと2度3度やれば、参加者もきっと増えていくと思いますし、みんなの声が入った条例になっていくと思います。できるできないは別として意見を聞くという懐の広さは皆さんに示しながら進めていけば良いのではないかと思います。

曾田委員長

名前は、地区懇談会と付いているんですが、従来の地区懇談会と比べて、私はずいぶんニュアンスがかわって、岡田さん、中西さんの進行もあって非常に柔らかい良い雰囲気であったと思いますが、どうですか。

大森課長

私も環境経済課にいたときに、粗大ごみの有料化を進めるということで、テーマを絞った地区懇談会を行ったことがあるんですけど、大体そういう有料化をしたりとか、教育委員会が小学校の移転ということで地区懇談会をやっていますけれど、具体的な行政上の課題に対する説明会という形だったと思います。こちらから資料を配布して説明して、それに対して質問を受けて答えていくんですけど、今回は、住民参加という、これから条例をつくりたいというような、将来に向けての制度の整備について、それも手法もいきなりお話しを伺うということでは意見が出ないということでああいう形をとって、しかも町の職員というよりは委員の皆さんのリーダーシップで行っていくということで、私としては初めての経験だったと思います。全体のトーンとしてはいやいや参加してみたけれど、出てみたら少しは良かったよ、もう少し参加者を増やしたらどうだというトーンだと思うんですが。

楠委員

ワークショップ的なことを、おそらくお見えになった方はご経験がないと思うんです。だけど、自分の意見を、普通は発言されないだろうという方が自分も発言できたという、何かに参加したという参加意識を持たれたと思うんですよ。あれは非常に良かったと思います。それは今までの懇談会とは一番違うところだと思います。

曾田委員長

今回の地区懇談会、これだけたくさんの資料を町民の皆さんにお返しするのは大変ですけど、この中で幾つかピックアップしたものを報告として、今回の地区懇談会ではこういう意見が出ました、こんなふうに進めていますというのをぜひ事務局の方、我々も少しお手伝いして、それをどこかで広報なんでしょうか、瓦版みたいな形で皆さんに広報に挟んでお知らせ

きると良いかと思えます。

つまりいろんな提案をしたんだけど、なしのつぶてでどうなってるのか、握りつぶされちゃったのか、というその辺の不信がありそうなので、今回参加して、私の意見がこんなふうに取り上げられているねということぐらいはあると良いかと思えます。参加条例そのものも大事なんですけれど、実際のやり方、参加のやり方の一つとして、こういう地区懇談会という名前で良いか分かりませんが、それぞれの地域の声をうまく出していただいて、それがうまくつながっていくような仕組みというのも並行してつくと良いのではないかと思うんですね。条例ができましたというだけではなくて、それと一緒にやり方もできて、それで地域が、町に対して何かものを言うだけでなく、地域の問題もその中で話し合いができるような仕組みが各地区にできる、あるいは地理的なものだけではなくて、グループごとにできるとか、条例と一緒にできるととっても良い表裏一体のものになるのではないかと思えます。

できればなるべくそうしたいと思うんですが、今までの条例は紙切れがあって、それでおしまいということなんですけれど、そうではなくて、それを上手く使っていただける仕組みが、地区懇談会を何回も繰り返していくたびに今度は地域の皆さんが、何かあると集らないかというような気持ちになってくださると、この条例がうまくいかされるのではないかと思うんですね。先走ってまとめになってはいけませんけれど、今回の地区懇談会、事務局は本当に大変だと思うんですけれど、また委員の皆さんにもエネルギーを使っていただきましたけれども、そうじゃなくて、地区で自主的にできるようになるというのが理想的ではないかという気がしました。

加藤委員

皆さんのお話したとおりに、地区の特色があるというのを感じました。たまたま下小口に参加したんですけれど、女性の方がお二人お見えになって、もう少し女性の方に出ていただいて違った意味でできたらというのを思いました。いろいろざっくばらんな感じでカードを挙げていただくと、最初こわばっていた皆さんが、何となくほんわかとしてきて、後で小規模のグループでお話してきたことで、最初は何してるの？とか、とりあえず来てみましたと話して見える方もいましたので、そういう意味では良かったと思えます。町民参加というか、今まで何も知らなかった方が何となくかじってみて、枝分かれしていったかなというのを感じました。後、私の職場にも大口町の方がいるんですけれど、上小口の方ですけれど、行けないんでどこか他の地区へというお話があり、下小口や中小口をお知らせしたんですが、やはり他の地区へ行くのはなかなか難しいということで、地区毎でやられるのは当然だと思うんですけれど、もう少し枠を持っていただくと違った意味で参加できたんじゃないかということと、もう少し興味を持っている方の予備日を作っていただけたらと、良かったかなと思いました。

曾田委員長

地区懇談会に予定された時間にいけないという方がいらっちゃって、今回の地区懇談会で終わりではなくて、例えば女性の意見を聞きたいとか、若い人の意見を聞きたいとか、どうですか、知り合いの範囲の中で、何か考えられますか。

加藤委員

どうしても仕事重視で日中は忙しいし、なかなか難しいですね。以前山瀬委員が言われたように、ホームページで意見をと、もう少し違う意味で枠を設けることができたらと思うんですけど。3日4日のふれあいまつりが行われたときも、のぞきましたと、興味がある方が見えてとても嬉しかったんですけど、中にはそういう方もみえるので、違った意味で意見を言ってもらえる方法をつくっていただけたらと思うんですけど。

曾田委員長

山瀬さんのご提案のように、ホームページを通じて中間報告をやったのを見て、何か意見があれば寄せてくださいという手はあるかもしれませんがね。IT懇談会ではないけれど、そういうのを仕掛けられるかもしれません。

山瀬委員

先ほどの意見のとおりなんですけど、懇談会でいろいろと意見を言ってくださいというのに対して、それがどこでどのように反映されるのか、またこの条例を作ることによって、今までやむやになっていた部分が明らかになります、あるいはダメであってもそれを解決するためにどういう方法があるのか、そういうことをシステムとして、これまでに、理念型とか手続き型とかあるということを勉強しましたが、どうやってまちの普段生活している中で様々な問題が生じたときに、誰が解決してくれるのか、それを今非常に不透明な部分が多くて、手続きが長くて解決ができないという部分があるので、条例を策定していく中で、町民の方にはできるだけその部分をPRできたら良いのかと思いました。言っただけで、きちんと解決できる仕組み作りとしての条例というか、そういうものが皆さん期待されているのかと、いろいろな個々の問題は多くて、町レベルで考えなければいけないものから本当に個人の問題まで様々なことがあるんですけど、その中で現段階で機能している議会や区長さんに言って、区として必要で大事なことであれば解決の糸口を見つけるために流れていくと思うんですけど、それよりも少し小さな問題は、どうしたら良いんだろうということになってしまったり、それではなくて、どのようなレベルの問題でも住民参加条例、参加をしていくという条例ができることによって、本当にお一人お一人の住みやすい環境づくりのために機能していくのであれば、生きてくるのではないかと思いました。

曾田委員長

その辺がこの条例の一番大事なところではないかと思うんですよね。そうでなければ今までのように議会があって区長さんがいて、そういうピラミッド型のシステムが続いているわけですから、そういうシステムにのらないようなことが結果的に行政のサービスに結びつくというようになると良いのではと思います。今のご指摘は、先ほどと同じように言ったことがどう扱われたか、ちゃんと返さないといけないという、本当に大事なことで、住民参加をやりながら住民参加条例をつくるという、それをやっていかないといけないと思います。

それでは中西さん、何か先ほどの感想に付け加えるものがあれば。どうでしょうか、女性とか、例えば子育て世代の人を集っていただいたりとか、そういう懇談会はできるものなんでしょうか。

中西委員

きっと子育て世代の方ならば、意見の内容は随分違うだろうと思います。これを読みながら、私と同じ世代の人はこうは言わないだろうなと思いました。逆に言うと違う世代の方が言っているので違う意見が出てくるんですけど。たぶん私たちと同世代の方々と「最近こうだよ」と言っていることが入っていないというのがありますね。

曾田委員長

そういう方たちに呼びかけて懇談会をできるものでしょうかね。

中西委員

サークルで幼稚園に入る前ですと、幼稚園の説明をしてもらうために幼稚園の園長先生を呼んだりですとか、自分達の知識を高めるためにけっこういろんな方を呼んだりして話を聞いたりと勉強したりしているところもたくさんあるので、呼びかければ平日の午前中でも子どもを連れていらっしゃるサークル単位でやったりとか、例えば保育園の一室をお借りして行うとか、集れそうな単位で話しを聞く機会があるとまた違った意見を聞けると思います。

曾田委員長

女性の皆さんからいただけたらと思うんですが。別の視点で懇談会というのができるというんな世代のいろんな意見が出てくるかもしれません。それが済まないといけないというのはいけませんから、条例づくりも並行して進めながら途中の段階で示しながらそこにいろいろな意見をいただくというように。

奥村委員

私も大口町の住民として他の地区をまわらせていただいて、今週初めて、下小口区の青パトを見て、「これが青パトなんだ」と初めて知って、知らない方はみえて、そういう地域と地域のつながりというか、知らない人は知らない、知っている人は知っているということで、河北地区がかなり熱が入っていて、他の地区はどうなんだろうと、逆に自分の場合はどうなんだろうと、そうするとやっぱりやれていないということで、その辺の水平展開をいかにしていくかということと、地区懇談会の感想なんですけど、普通の懇談会ですと、たぶん出てこられてもただ聞いてるだけ。私も非常に参考になると思ったのが、旗揚げとか、小グループのミーティング。ああいうことをやることでただ単に出ただけではなくて、自分も参加したんだというところでもかなり違うんじゃないかと、これが2回3回と何回続くかわかりませんが、先回こういうことがあったから、皆さん出て、意見やそういう話で進んでいくよと、気楽な参加できる会になったのではないかと思いますし、2回3回とやっていけば増えていくんだろうなと思います。

またある議員さんがごみ問題ですけど、私の企業の周りが汚かったものですから、議員さんに言われてですね、それを会社に持ち帰って話をしたら、みんなはやらなければいけないと思っているんですけど、なかなか音頭をとる人がいなかったということで、金曜日は会社も定時なものですから、終わってから有志30人ぐらいで5時から会社の周りのごみ拾いをやったということがあって、これを1回でやめずに2回、3回と続けていって輪を広げていこうということも、今回出て周りの人もそういうふうに思っているんだということが分かりました。

大森主任

地区懇談会の開催の仕方については、役場が行ってきた地区懇談会はこんなやり方をやったのは初めてだと思います。こういうやり方をやったからこそこういう成果が出たと思いますし、私たちは前例に捕らわれずに会議のやり方も懇談会のやり方もワークショップのやり方も率先して変えていくべきだということは痛切に今回を通して感じました。

それから私も恥ずかしい話なんですけれど、各地区まわらせていただいて、実は行政職員でありながら知らないことがたくさんありました。秋田の戸票の取り組みも、垣田の中国語講座の取り組みも、各地区では真剣に課題に向き合っていて取り組みが始まっていて、確かに地域活動については、大口町は全国でも有数の自治体だと思うんですけれど、コミュニティの自治活動と行政との協働という面ではまだまだだということも率直に感じました。

だから、この条例が一つのきっかけになって、地域の皆さんが元気に楽しく参加できるというのはもちろんなんですけれど、私たち行政も大きく発想から切り替えていく起爆剤にもなっていくのかなということを感じました。

曾田委員長

住民懇談会の中でもあったと思うんですが、役場の中の横の連携もやってくれという意見がありましたね。縦ではなく、ですから参加条例のこともやってみえると思うけれど。

大森主任

地域振興課との連携だけではなくて、他の課ともどういう取り組みをしているんですとか、どう考えていったら良いとか、情報を共有していかないといけないと思いました。

曾田委員長

環境だとか交通だとか、役場だけではなく警察も入るかもしれないけれど、その辺でつながりがあるといいですね。これからつくっていかねばいけないんだろうと思いますが。

大森主幹

今回の条例をつくるということに関して、条例なもんですからそれほど難しく考えていなかったんですね。途中からとても難しくなって、先が何も見えなくなって、本当にこの会議自体を進めるものをつくっていくということでも、今、四苦八苦している状況なんですね。

今回の懇談会で、実感したのは自分で作るのではないと、たくさんの人と一緒に作るんだということに関しては、たくさんの人と作るからこそ、本当に先のみえないところを切り開いていけるのかなという感じはあります。自分の中ではこの条例の中に取り入れたい項目というのはほとんど固まっているところはあるんですけれど、それを言葉で表現する表現の仕方はたくさんあるんだろうと、課題は、それをどうやって表現して出していくかということですね。

曾田委員長

だんだん見えなくなってきたとおっしゃいましたけれど、それが見えてきたということにもなると思うんですね。余り最初から見えてるものをつくってもそれは押し付けになってしまうから。その辺のいろいろな声をどうまとめていくのかということと課題がたくさん出ると

いうか、まだ後いろいろと大変でしょうけれど。

大森課長

最後のさつきヶ丘でまとめの時に話しをさせていただいたことなんですが、模造紙の一番最後のところですが、(遊具も大事だが、子ども達が望むのはそこで運動ができること)運動ができる公園があると良い。ということで、さつきヶ丘の公園というのは広場だけで、そこがかなり子どもの利用があるということです。そういったことがありまして、町の行政まではそういった意見は届いていなかったでしょうし、また直ちにそれをということもないでしょうが、町の方に届いてそれができるのかということと一緒に議論して、その結果やりましょうとか、やっぱりダメですとか、そういうことを返すことができる仕組みができると、豊田区であったような意見は少なくなるのかということをおもいました。それが国とか県の基準で作っていた公園を地元の住民の方の視点から見た公園のつくり方に変えていくということが地方分権の時代の世の中の進め方なのかなと実感をしました。

曾田委員長

住民の皆さんに納得いただいて、できないならできないなりに分かっていただける仕組み、それをつくるということですね。

大森課長

課題の発見を住民の人と一緒にああいう話をしていく中でできると良いと思います。

曾田委員長

地区懇談会のやり方が進歩したといいながらまだ今までの懇談会を引きずっている面もありますが、それは行政の立場として答えるということもしないと、持ち帰りますでは、今回その辺もとても良かったと思うんです、ある意味では。こういう地区懇談会という名になるか分かりませんが、地域会議とか、そういうものが上手く機能するようになれば良いと思いました。

森室長

一つ役割をもらって、その役割の中で皆さんの進行と参加される方の話しをよく聞いていたんですけど、大森課長が言いましたように、どうしても一つの目的をもって地域へ説明会に出た経験はあるんですけど、今回の形で皆さんから意見をいただく、また皆さん方に進行をしていただくという形のは初めての経験だったので、非常に町民の皆さんとのやり取りが自分には勉強になったと思います。どうしても私たちは自然に受身になっているのかもしれませんが、しかし一つひとつ言われることに真剣に「いやそれは違いますよ」ということをその場でどうしても言いたいというところがありまして、そういうことを言うことによって、各会場で皆さんに作ってもらったああいう雰囲気というのは生まれなかったでしょうし、そういう意味では非常に良い経験をさせていただいたと思っています。ただ、この参加条例の中身が分からなくて本当に純粹にあの会場にこられた住民の皆さんはこれからきちっとした情報を伝えていくことによっておそらく十二分に理解していただけたと思うんですけど、そうでない、いろんな情報が先行して入っているような方はそういうことの軌道修正が非常に難しい。それと

既得権ということとどう整合させていくか、その当たりが難しいということは感じました。

曾田委員長

一通り皆さんから意見をいただきましたが、意見を言い忘れたとか、まだある方はどうでしょうか。

岡田委員

一つ付け加えさせていただくとすれば、今回地区別の話し合いの場でしたけれど、中西さんや楠さんがやられているテーマ型の動きも活発化しているところなので、この条例づくりのプロセスとしてもテーマ型の皆さんからどう意見を吸い上げるかということと、条例の中でもその位置づけを、はっきりと言葉で表現しないまでも、何らか、縦と横の関係化、バランスよくとれるようなニュアンスを出せていくと良いと思いました。

曾田委員長

大体懇談会の感想と今後の進め方についてご提案をいただきましたが、一つは地区懇談会でよしとせずに関わり別のグループにも同じような形で意見をいただけたらどうかという話がありました。もう一つは地区懇談会の中間報告というか、策定会議の中間報告として、「この地区からはこんな意見、全体としてはこんな意見、今後はこういうふうに進めていこうとしています」というような策定会議の瓦版のようなものを皆さんにお届けできると良いと思います。そしてまたそれに対して意見をもらえるように紙のものとホームページと両方が良いでしょうか。ホームページの方が簡単で、皆さん見てくださると思っていてもなかなか見ていただけなかったり、この委員会の議事録を公開しているということですが、余り見ていただけないようですし、なるべくこういうことを今やっているということを積極的にお知らせすることができるようなメディアとか方法で年内ぐらいにできれば、お正月休みぐらいで目を通していただけるような形でぜひ事務局に負担がかかるかとは思いますが、まさに参加条例に参加でやっていくということにしたいと思っておりますので、やっていただきたいと思っております。それから関わり事のグループに2～3ヶ所。場所と時間と日にちの関係で、来たくても来れない人がいると思うんです。なるべく拾えるような形であと2～3回できると良いかと思っております。

(2) 町民参加条例骨子について

大森主幹より配布資料5に基づき説明

曾田委員長

かなり先のところまで骨子の話まで踏み込んだ内容ですが。

岡田委員

行政への町民の参加という面だけではなくて、一緒にやっていこうという協働の理念を込めましょうというのは大変良いと思いますし、今回の地区懇談会の成果がはっきり出たと思っております。後、NPO促進条例との兼ね合いのところ、いわゆるテーマ型のNPOの支援は

NPO活動促進条例だけれども、地区別の課題というかそうした課題をよりウェイトをかけてこの条例で取り上げていこうというその制度は分かりやすい大口らしいと思います。さらに言わせていただければその関連性まで踏み込んで表現できると非常に大口らしい、大口らしいというよりも大口の実態にあった適切な条例になるかなということをおもいました。一番左側の行政参加というところも非常に大事なことをおもひまして、書いてくださって改めてハッと思ったんですが、職員の方も知らないことがあって、聞いてみるとなるほどと思うことがあったり、自分達がやろうとしている施策に効いてくる具体的な意見がポロッと聞けたりだとか、行政の方も参加・協働の場のところに一緒になって入っていただけるような理念等を具体的に表現できると非常に良いとおもいました。

曾田委員長

参加だけでなく、理念を盛り込むことというあたりで、住民の皆さんにお示しすることは行政も当然そうなんですけれど、住民の皆さんにお示しするだけではなく、行政の自律のための指針みたいな、行動指針みたいな、そういうものが理念として今回の条例の中に必要なのではないかと。積極的に住民の中に入っていき、皆さんの意見が上がってくるのを待つだけではなくて、むしろどんどん行政が参加していくというようなものがあると良いという気がしました。

そして、何となくイメージがある程度見えてるのではないかと気がしました。中間報告のかわら版のようなものも、堅い表現が使われているので、もう少し分かりやすく柔らかい表現にすればできあがるのではないかとおもいます。

閉会

[次回会議]

平成20年1月18日(金) 13:30 ~ 役場2階 第1会議室